

練馬区外郭団体中期経営計画の達成状況

団体名	公益財団法人 練馬区文化振興協会	団体所管課	地域文化部文化・生涯学習課
-----	------------------	-------	---------------

経営計画期間	令和 7 年度 ～ 10 年度	※計画期間は4年間(令和7～10年度)、年度別計画は2年間(令和7～8年度)
--------	-----------------	--

団体の目指す将来像

区の文化施策の一翼を担い、普段の暮らしの中で身近に、誰もが優れた文化芸術を楽しめる取組を推進します。

取り組みを進めるうえでの「基本的方針」

「もっともっとアート」をスローガンに、協会の目指す将来像の実現のための施策を3つの方向性と5つの柱に分け取り組んでいきます。

【施策の方向性】

- ・都心に行かずとも質の高い文化芸術を楽しむことができる
- ・身近な場所で文化芸術に触れることができる
- ・誰もが文化芸術を楽しみ参加することができる

【施策の柱】

- 柱1 もっともっと練馬ならではの質の高い文化芸術を！
- 柱2 もっともっと身近で文化芸術を！
- 柱3 もっともっとみんなで文化芸術を！
- 柱4 経営力の強化
- 柱5 組織力の強化

区が外郭団体に求めるもの

区との密接な連携のもと、区の文化施策の一翼を担い、普段の暮らしの中で身近に、誰もが優れた文化芸術を楽しめる取組を推進すること。

区の外郭団体としての実績や継続性、公益財団法人ならではの柔軟性を発揮しながら、専門性・公共性を活かした事業を展開するとともに、区立施設の指定管理者として、施設間の連携を図りながら適切な管理運営を行うこと。

達成状況の評価

外郭団体は、経営計画の取組や達成状況を毎年度、評価する。団体が行う達成状況の評価は、つぎの3段階で評価する。

- 「A」 計画以上に進んだもの
- 「B」 概ね計画どおりのもの
- 「C」 計画どおりに進んでいないもの

団体所管課の評価

団体所管課は、年度終了後、団体の取組や達成状況などから、年度の評価を行う。

柱1	もっともっと練馬ならではの質の高い文化芸術を！
取組内容	①著名な演奏家等によるクラシックコンサートおよび能・狂言公演を練馬文化センターで定期的に実施する。 ②美術館ではリニューアル後の活用を見据えて収蔵品の整理や他施設での展示・貸出をする。石神井公園ふるさと文化館ではアニメ資料の活用や区ゆかりの漫画家との連携事業を推進するとともに、常設展示の更新を検討する。 ③美術館リニューアル後の指定管理受託に向けて、より充実した事業活動等を検討する。

目標①-1	質の高い舞台公演の実施 「著名な演奏家等によるクラシックコンサートの実施(3公演)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施 (3公演)	実施 (3公演)		
実績	実施 (3公演)			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	「フレッシュ名曲コンサート」、「川口成彦フォルテピアノ・リサイタル」、「東京都交響楽団×大谷康子 未来への讃歌」の3公演を開催し、いずれも好評を博した。			

目標①-2	質の高い舞台公演の実施 「能・狂言公演の実施(2公演)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施 (2公演)	実施 (2公演)		
実績	実施 (2公演)			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	「万作・萬斎狂言の会」、「能・狂言への誘い」の2公演を実施し、いずれもチケットが完売するなど好評だった。「能・狂言への誘い」では、昨年度に引き続き、上演作品の魅力や見どころを解説するプレ講座も実施した。			

目標②-1	収蔵品の調査研究および活用の推進 「収蔵品の整理・活用」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施	実施		
実績	実施			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	美術館では収蔵品のアーカイブ化に向けた整理作業を行った。 また、美術館とふるさと文化館の収蔵品を活用した「もっと浮世絵で行こ！」展を開催し、10,124名もの来場者数を記録した。ふるさと文化館では「武蔵野鉄道110周年」展、「練馬とアニメーション」展や常設展示で、収蔵品を活用した。			

目標②-2	収蔵品の調査研究および活用の推進 「アニメ・漫画資料を活用した事業の実施」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施	実施		
実績	実施			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	ふるさと文化館所蔵のアニメ資料を活用した特別展「練馬とアニメーション アニメ製作いまむかし」を開催した。 練馬区ゆかりの「プロの漫画家に教わる漫画教室」を延べ16回開催し、いずれも好評を博した。分室では、区ゆかりの漫画家8名に関する展示を行った。			

目標②-3	収蔵品の調査研究および活用の推進 「常設展示の大規模な更新に向けた検討」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	常設展示でとしまえんの コーナー展示を新設する など、新収蔵品を活かす 取組を行った。また、常設 展示の大規模更新に向 け、平成期の資料の一次 抽出を行った。			

目標③	美術館リニューアル後の事業活動等の検討			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	美術館再整備に伴う解体 工事見送りを受け、現施設 での活動や事業計画を速 やかに検討し、対応に努 めた。			

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	文化センターでは、クラシックコンサート3公演と能・狂言2公演を開催し、いずれも好評を得た。美術館では、収蔵品のアーカイブ化に向けた整理作業を行うとともに、美術館再整備に伴う解体工事見送りを受け、企画展等の開催計画の見直しを行った。また、美術館とふるさと文化館では、両館の収蔵品を活用した「もっと浮世絵で行こ！」展を開催し、10,124名もの来場者数を記録するなど、好評を博した。ふるさと文化館では、所蔵アニメ資料による特別展「練馬とアニメーション アニメ製作いまむかし」を開催したほか、「プロの漫画家に教わる漫画教室」を延べ16回実施し、分室では区ゆかりの漫画家8名の展示を行った。常設展示ではとしまえんコーナーを新設し、常設展更新に向けた収集資料の抽出も進めた。
事業 所管課	指定管理施設である文化センター、美術館、ふるさと文化館のいずれにおいても概ね計画通りの事業を実施し、公演や展覧会で好評を博すなど、一定の評価を得られている。また美術館再整備に伴う解体工事見送りにあたり、区との連携を密にして施設運営や事業を安定的に継続した点を高く評価する。

柱2	もっともっと身近で文化芸術を！			
取組内容	練馬文化センターのお届け！ねりぶん音楽便を拡充するほか、美術館休館中でも他施設やまちなかでの展覧会の開催やワークショップ等の教育普及事業を区内各地で展開し、アートを楽しめる事業を実施する。			
目標①-1	区内各地で行う事業の推進 「お届け！ねりぶん音楽便の拡充(年間6か所・7回)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	拡充 (年間6か所・7回)	実施 (年間6か所・7回)		
実績	拡充 (年間5か所・6回)			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	新たな会場での実施はできなかったが、実施回数を増やすことができた。			
目標①-2	区内各地で行う事業の推進 「区内各地でアートを楽しめる事業の実施」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施	実施		
実績	実施			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	アートマルシェに併せて美術館や中村橋駅周辺のまちなかを舞台に現代アートの展覧会を開催したほか、ふるさと文化館と美術館の収蔵品を活用した「もっと浮世絵でいこ！」展を開催した。			
取組内容の評価(令和7年度)				
団体	ねりぶん音楽便は、新たな会場の確保ができなかったが、実施回数を増やすことができた、満足度が平均96%を超えるなど好評を博した。 美術館や中村橋駅周辺のまちなかを舞台に現代アート展を商店街の協力を得て開催したほか、ふるさと文化館と美術館の収蔵品を活用した展覧会を実施するなど、区内各地での事業を推進した。			
事業 所管課	地域の身近な施設等での事業実施にあたっては、会場となる施設との調整において難しい面もあるが、実施回数増を達成した。 美術館やふるさと文化館において、初のまちなかを舞台とした野外展示の実施をはじめ、創意工夫により各所で魅力的な事業を展開した点を評価する。			

柱3	もっともっとみんなで文化芸術を！			
取組内容	①区内小学校への狂言師・能楽師派遣事業および福祉施設や病院等への演奏家等派遣事業を拡充する。 ②ユニバーサルデザインについて、研修の受講等で職員の意識やノウハウを高めるほか、誰もが楽しめる事業の実施や支援機器の活用など、ソフト・ハード両面から取組を推進する。			
目標①-1	施設への派遣事業の拡充 「狂言師・能楽師派遣事業の拡充(年間10校)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施 (年間8校)	拡充 (年間10校)		
実績	実施 (年間8校)			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	狂言師派遣事業を6校、能楽師派遣事業を2校で、それぞれ実施した。アンケートでは、「貴重な体験ができた」「子どもたちにとって素晴らしい時間になった」などの意見が寄せられ、好評を博した。			
目標①-2	施設への派遣事業の拡充 「演奏家等派遣事業の拡充(年間12回)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	拡充 (年間12回)	実施 (年間12回)		
実績	拡充 (年間12回)			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	昨年度より4か所増加し、年間12回を実施した。募集数を上回る応募があった。			

目標②	ユニバーサルデザインの推進			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	推進	推進		
実績	推進			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	各施設ホームページのバリアフリーページの情報充実と、誰もが鑑賞を楽しむためのロードマップを作成した。また、ユニバーサルデザインに関する情報を届けるため、SNSを活用した情報発信を強化した。			

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	小学校への狂言師・能楽師派遣事業の着実な実施と、福祉施設・病院等への演奏家派遣事業の拡充により、より多くの人々が文化芸術に触れ、楽しむ機会が広がるよう努めた。 各施設のホームページでバリアフリーページの情報充実を進めるとともに、誰もが鑑賞を楽しめる環境・サービスの整備に向けたロードマップも作成したほか、情報を広く届けるためSNSを活用した発信も行った。
事業 所管課	文化芸術の裾野を広げる取組として、児童への伝統芸能の体験機会や、ホール等に足を運ぶことが困難な方々への鑑賞機会の提供に取り組み、公的な団体としての社会的な役割を果たしている。 ユニバーサルデザイン推進において、情報発信や設備、サービスなどさまざまな面で、あらゆる人々にとってアクセスしやすくなるように取組や検討を進めている点を評価する。

柱4	経営力の強化
取組内容	①自律的で効率的な経営を進めるため、常勤役員等による運営会議を定期的 に開催する。収支を適切に把握し国の制度改革の動向を踏まえて財政基盤を 強化し、資金積立てによる文化芸術事業への再投資を図る。 ②寄付金を活用した事業を実施するとともに、協賛金などの資金の獲得・活用 手法を検討する。さらに、美術館リニューアルを見据え、収益事業の拡充を検討 する。 ③区民への多様な公演機会の提供と財源確保のため、練馬文化センターは稼 働率向上に引き続き取り組む。また、練馬文化センターでは抽選会後の一定期 間を過ぎた時点での新規利用に対し、ホール利用料金を柔軟に設定するなどの 利用促進策を検討する。

目標①-1	経営体制の強化 「運営会議の開催」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	開催	開催		
実績	開催			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	運営会議を毎週開催し、 事業計画、予算、人事等 の進行管理を着実に 行い、運営を効果的・効 率的に進めた。			

目標①-2	経営体制の強化 「公益充実資金などの活用」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	活用	活用		
実績	活用			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	公益法人制度の改革を踏 まえ、中長期の財政計画 を策定した。 DX推進事業等への公益 充実資金の積立、文化芸 術事業への再投資を実施 した。			

目標②-1	外部資金の獲得・活用 「寄付金等を獲得・活用した事業の検討・実施」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討・実施		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	施設を横断したプロジェクトチームを設置し、民間プラットフォームを活用した寄付金を募る新たな手法を8年度から導入することとした。 導入に備え、寄付金事業の募集要項案を策定した。			

目標②-2	外部資金の獲得・活用 「収益事業拡充の検討」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	収益事業の拡充を目的に、内部での検討を進めた。			

目標③-1	ホール利用の促進 「練馬文化センター大ホール稼働率の向上(78%)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	78%	78%		
実績	73%			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画どおり			
備考	土日祝日利用の稼働率は87%と、昨年度を上回る稼働率となった。			

目標③-2	ホール利用の促進 「練馬文化センター小ホール稼働率の向上(84%)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	84%	84%		
実績	73%			
団体の達成 状況の評価	C 計画通りに進んでいない			
備考	土日祝日利用の稼働率は昨年度を上回ったが、引き続き平日の稼働率を上げることが課題となっている。			

目標③-3	ホール利用の促進 「ホール利用促進策の検討」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	稼働率の分析から、平日利用について利用料金の見直しも含めた促進策を検討した。			

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	運営会議を毎週開催し、事業計画、予算、人事等の進行管理を着実に行之、運営を効果的・効率的に進めた。公益法人制度改革を踏まえて中長期の財政計画を策定し、文化芸術事業への再投資などを実施した。また、外部資金獲得のため民間プラットフォームを活用した寄付金募集の新たな手法を8年度から導入するため、募集要項案を策定した。収益事業拡充についても、内部での検討を進めた。 ホールの稼働率は、大ホール・小ホールともに全体では目標に届かなかったものの、土日祝日の稼働率はそれぞれ昨年度を上回った。一方で平日の稼働率向上が課題であり、分析結果を踏まえ、利用料金の見直しを含めた平日利用促進策を検討した。
事業 所管課	運営会議の開催、再投資のための基金設置など経営体制の強化と、外部資金の獲得強化に向けた準備など、着実に取組を進めている。ホールの利用については目標に届かなかったものの、稼働状況を分析し、新たな利用促進策の具体化に向けた検討を進めている点は評価できる。

柱5	組織力の強化
取組内容	①人材育成方針に基づく研修の実施や専門性を有する職員の育成により、職員のスキル向上を図る。また、固有職員を積極的に管理監督職へ登用し、将来を見据えて組織力を強化する。さらに施設間で連携しながら、魅力的な取組や共通テーマに横断的・積極的に取り組む。 ②美術館リニューアル後の指定管理受託に向け、事業活動等の検討と並行して、区の動向に合わせて最適な運営体制について検討する。 ③現在の業務プロセスの課題を洗い出し、必要性や効率化の観点からDXを推進する。あわせて、多様な働き方の実現に向けた検討をする。

目標①-1	人材育成の推進および施設間連携の強化 「人材育成計画に基づく研修の実施」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施	実施		
実績	実施			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	研修実施計画に基づき、職員として共通に必要な能力を付与する基礎研修と、専門性向上のためのスキルアップ研修を実施し、人材育成を進めた。			

目標①-2	人材育成の推進および施設間連携の強化 「アートコーディネーター職の配置(試行)」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	試行	試行		
実績	試行			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	アートコーディネーター職の8年度当初からの配置を見据え、専門的知識を有する職員を採用し、職務の役割等を整理した。			

目標①-3	人材育成の推進および施設間連携の強化 「固有職員の係長職への登用増」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	増	増		
実績	増			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	新たに固有職員2名を係長に登用し、7名の固有職員が係長の職務を担う体制とした。			

目標①-4	人材育成の推進および施設間連携の強化 「組織を横断した連携の実施」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	実施	実施		
実績	実施			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	文化センターで、音楽と美術を同時に鑑賞する新たな体験を提供する企画として、レクチャーコンサートを開催した。 また、美術館とふるさと文化館がそれぞれ所蔵する浮世絵を活用した初のコラボ展示を開催した。 文化センターやゆめりあホールでは、他施設の紹介展示を行った。さらに、プロジェクトチームにて協会スローガンのロゴを作成するなど広報連携を実施した。			

目標②	美術館リニューアル後の運営体制の検討			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	他自治体の2つの複合施設を視察し、組織・運営体制についてヒアリング等を行った。			

目標③-1	DXの推進 「実施計画の策定」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	策定		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	職員を対象にアンケートを実施して現在の問題点・改善点の洗い出しを行い、実施計画の策定に向けて基本方針の骨子を作成した。			

目標③-2	DXの推進 「多様な働き方の検討」			
年度別 取組計画	7年度	8年度	9年度	10年度
	検討	検討		
実績	検討			
団体の達成 状況の評価	B 概ね計画通り			
備考	職員アンケートを通じて多様な働き方についての意見を把握し、基本方針の骨子に反映した。			

取組内容の評価(令和7年度)	
団体	基礎研修・スキルアップ研修を通じて職員の能力向上を図るとともに、アートコーディネーター職の配置を見据え、職員の採用と役割等の整理を行った。また、新たに固有職員2名を係長に登用した。 さらに、連携事業の開催や経営計画スローガンのロゴデザインを作成するなど、組織を横断した連携を実施した。 DX推進に向けて職員アンケートを実施し、課題と改善点を整理するとともに、実施計画策定に向けた基本方針の骨子を作成した。
事業 所管課	基礎研修およびスキルアップ研修の実施や職員の登用など人材育成に努めるとともに、組織を横断した連携にも着実に取り組み、事業の実施やロゴデザインの作成につなげている。業務プロセス変革を見据えたDXの推進に向けて、課題や改善点を洗い出し、それらを反映した基本方針の骨子を作成するなど検討を進めている。